トビタテ！留学JAPAN　日本代表プログラム　留学状況報告書

※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：留学状況報告書_第●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S151N176010005
氏名(漢字)	富樫つらね
氏名(ひらがな)	とがし　つらね
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	農学研究科　生物生産科学コース
所属学科/専攻/コース	植物生産科学領域　果樹園芸学研究室
課程(▼で選択)	修士
留学修了時の学年(○年)	修士2年
期　(○期)	2期
コース　(▼で選択)	理系、複合・融合系人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2015/10/05
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2015/12/21

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 **※主要な留学先を2か所記入してください。** **2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）に記載してください**	1	国名	イギリス
		都市名	マンチェスター
		受入機関名	カプランカレッジ
		期間(yyyy/mm/dd)	42287
		活動概要と成果	1ヶ月間IELTSの授業を中心に受講した。クラスメートは難関大を目指しており、意欲の高さに非常に刺激を受けた。初回のテストでスピーキング力の弱さを指摘されたが、課後のエクストラクラスの受講など場数を踏んだことで初めと比較して自分でも成長を感じ、最終週に実施された筆記およびスピーキングテストで、１ランク上の最高レベルのクラスへの参加が認められた。
	2	国名	イギリス
		都市名	ノッティンガム
		受入機関名	ノッティンガム大学
		期間(yyyy/mm/dd)	2015/11/06~2015/12/21
		活動概要と成果	モデル植物であるシロイヌナズナの扱い方（MS培地での培養、プレパラートの作り方）、顕微鏡を使用した組織学的分析の実験手法（発根発生ステージの見分け方等）、DNA抽出からPCR、電気泳動までの遺伝子解析の一連の流れ（サンプル採取、遠心分離器の使用方法、PCRの基本原理など）遺伝子解析技術、組織学の実験手法を学んだ。更に、その手法を用いて行った実験の結果を共同研究関であるK大学とR大学に報告することができた。ラボへの滞在を通して側根発生に関わるトータルな考察とその個体自体の育種素材としての可能性の検討に関する知見を得ることができ、自身の修論の考察としても使用した。ノッティンガム大学でのスーパーバイザーからも評価と所見を頂き、実験に取り組む姿勢への高評価を頂いた。また、大学の日本語クラスにティーチィングアシスタントとして参加し、日本食レストランに行くなど、日本発信活動を行った。写真を用いて日本について説明したりと、日本発信活動の中で最も密に日本の紹介ができ、また、普段言語を学ぶ側なので、自分が教える立場に立つということは非常にいい経験であった。

<table>
<tr><td rowspan="3">日本発信プロジェクト
活動概要と成果
※事前課題P22と研修で検討した内容をもとに記載してください</td><td>活動タイトル
(30文字以内)</td><td>日本食から新しい野菜の食べ方を提案する</td></tr>
<tr><td>実行したこと</td><td>①伝統料理の持ち寄りパーティーでの参加。留学生がそれぞれの国も伝統料理を持ちよるパーティーにコロッケとミニ鍋を作って参加した。
②研究グループ、研究室のクリスマス会に参加。だし巻き卵、角煮、野菜鍋を作った。
③日本語クラスへティーチングアシスタントとして参加、日本食レストランへ引率など行った。</td></tr>
<tr><td>成果・
気づいたこと</td><td>①では、マッシュポテト以外のジャガイモの食べ方を初めて知ったと冗談を言ってくれる人も多く、野菜を多く取れる日本食は好評であった。しかし、豚肉を入れてしまったことで、宗教上の理由で食べれない人もいて、自分の考慮の無さと宗教と食の関連性の難しさを感じた。このことを踏まえ②では、日本食を作ってくれとリクエストされたため、事前に食材に関するアンケートを取り、だし巻き卵、角煮、野菜鍋を作っていった。幸い、豚肉も大丈夫であったが、ラム肉ならば事前の確認が必要なく、安心であるということを教えてもらった。③では、日本食レストランに行き、レシピや食材を当てる等の日本語の練習もしながら、日本食を楽しむことができた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください
※具体的な経験エピソードをもとに記入してください</td><td>成長した点は「宗教などを理解した上で相手との相違点を認める視点が身に付いた」ことである。私が所属していたラボは、多国籍の研究者が所属しており1回、各自がコーヒーを持って集まり、円テーブルを囲んで非常にリラックスした状態でラボミーティングを行っていた。その際、各研究者の宗教への配慮が当たり前の様に行われており、研究での議論では宗教や国籍といった枠を超え、自由な発想の下で活発な意見交換を行っていた。相手の宗教などに配慮した行動をとり、同時に互いに1人の研究者として認め合っている点にとても感銘をうけた。</td></tr>
<tr><td colspan="2">あなたにとっての留学の価値
※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください</td><td>私が留学したことで得られたと思うことは3つある。1つ目は同じ専門分野の友達ができたことである。将来は研究者目指している友人らとの意見交換は非常に有意義であり、また、将来この人脈を仕事の場で活かせると確信している。2つ目はホームステイを通して、家庭料理や現在のイギリス人が求める食への捉え方やニーズを理解することができた。また、人種のるつぼと呼ばれる環境下での生活で移民問題や人種差別、更に滞在時におこったフランスのテロなどにより、これらの問題を真摯に受け止め、考えるチャンスを得ることができた。そして3つめは自分自身の力不足を痛感できたことだ。正直、以前に留学の経験もあり、大学でもそれなりに実験を行っていたことから、飛び立つ前は少しは自信があった。しかし、留学生も英語ができて当たり前の環境で、日本にいた時の私より格段に多い実験をこなしている現状を目の当たりにし、世界のトップレベルの大学との差を見せつけられた気がした。海外での滞在は終了したが、これからが新たなステージだと捉えている。イギリスで感じた悔しさなどを今後踏まえて弱点を見直し、これからの社会人としての仕事に活かしていきたいと考えている。楽しいことばかりではなく、悔しさや反省が多い留学であったが、自分の実力を世界の舞台で試すことができたことが一番大きな収穫であったと思う。</td></tr>
</table>

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 **※事前課題P○と研修で検討した内容をもとに記載してくださ**	カテゴリ	イベント（大学等）
	活動タイトル（30字以内）	留学報告会、ラボワークで得られた所見を使用した論文の発表
	対象者・人数	本研究室の教授および学生（26人）、本学科の教授陣および学生（100人）、本研究室の教授、学生およびOB・OG（50人）
	実施場所	宮崎大学
	実施時期	1月8日、2月5日、2月13日
	内容	①留学中に得られた知見を修士論文に加え、本学科の教授、学生の前で発表した。その後、本研究室の学生、指導教員、学科OB・OG及び各県庁農業試験場の研究員を招き、再度発表を行った。 ②留学体験記をパワーポイントにまとめ、本研究室主催のゼミで発表した。同時に、行った研究に関連する2報の英論文を翻訳し、紹介した。
	達成目標	＜1月8日実施＞ 理系の学部生にも留学に興味を持ってもらい、もっと留学を身近に感じてもらう。 ＜2月5日、2月13日実施＞ ①専門的な視点から、教授や研究員の方から実験や考察に関するご意見を頂き、実験の改善点や考察に関する矛盾点を明らかにする。 ②頂いた意見を元に修士論文を書き上げ、より充実した内容にさせる。
	実施に向けたアクションプラン	＜1月8日実施＞ 日本語で要約した論文のレジュメおよびパワポの準備。 ＜2月5日、2月13日実施＞ 論文のレジュメとパワポで作成した、論文概要。